

令和6年度 第2回 技術部会

C3部会 2025年2月10日(月) 全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項=====

1. 令和7年度 高校適用規則（競技規則、採点規則）の確認
2. 令和7年度 全国高校総体（体操競技：島根・新体操：山口）大会実施要項について
3. 令和8年度 全国高校総体（兵庫）大会実施要項について
4. 令和6年度 全国高校選抜（体操競技：高知・新体操：香川）大会について
5. 令和7年度 全国高校選抜（体操競技：長野・新体操：福井）大会実施要項について
6. その他
 - (1) インターハイ改革について（別紙参照）
 - (2) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

==== 審議結果=====

1. 令和7年度 高校適用規則（競技規則、採点規則）の確認
 - (1) 令和7年度以降大会の個人競技手具の確認

	全国高校総体			全国高校選抜				国民スポーツ大会					
	個人手具		開催地	個人手具				開催地	個人手具			開催地	
令和7(2025)年度	Ro	Cl	山口	St	Ri	Ro	Cl	福井	St	Ri	Ro	Cl	滋賀
令和8(2026)年度	Cl	St	兵庫	St	Ri	Ro	Cl	宮崎	St	Ri	Ro	Cl	青森
令和9(2027)年度	St	Ri	千葉	St	Ri	Ro	Cl		St	Ri	Ro	Cl	宮崎
令和10(2028)年度	Ri	Ro	岐阜	St	Ri	Ro	Cl		St	Ri	Ro	Cl	長野

手具表記：St(スティック)、Ri(リング)、Ro(ロープ)、Cl(クラブ)

- (2) 高校適用規則（競技規則、採点規則）について
 - ア 高体連適用規則について（別紙参照）
 - ・ 競技規則の改訂に合わせて内容の整理。
 - ・ タイブ레이크については、高体連適用規則から削除し、競技規則に準じることとする。
 - ・ 落雷等自然災害による演技続行が不可能と判断した場合は、競技部長及び審判長の判断により演技を中断することができる。その場合、再演技を行うことができる。
2. 令和7年度 全国高校総体（体操競技：島根・新体操：山口）大会について
 - ・ 会場についてフロアとアップレーンとの距離は2m。若干狭いように思えるのでリハーサル大会を経て調整する。
 - ・ 個人競技日の本会場の入場時間から競技まで少し長いように思えるので、短くできるのであればお願いしたい。
 - ・ 連絡事項の炭酸マグネシウムについては後述の内容のとおり禁止で記載する。
3. 令和8年度 全国高校総体（兵庫）大会実施要項について
 会場と競技フロアについては、案のとおりとする。
4. 令和6年度 全国高校選抜（体操競技：高知 新体操：香川）大会について
 特になし
5. 令和7年度 全国高校選抜（体操競技：長野・新体操：福井）大会実施要項について
 フロア2面で大会を運営する予定。

6. その他

(1) インターハイ改革について（別紙参照）

練習会場のフロア枚数を減らしてもよいと考えるが、全会場を合わせてフロア3面を維持していただきたい。これにより、従来アップレーン含めフロア6面必要としていたが、主会場、サブ会場、練習会場を1つの会場で賄える体育館であればアップレーンも削減して3面で大会運営をすることができるため、大幅な費用削減が見込めると考える。主会場、サブ会場、練習会場が別の大会だったとしてもフロア4面で運営でき、従来から費用削減が見込まれる。

(2) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

1) 炭酸マグネシウムの使用について

令和7年度以降の高校総体、選抜大会において炭酸マグネシウム（形状に関わらず会場を汚すようなもの）の使用を禁止する。

2) 令和7年度全国高校総体（団体競技）補充枠の優先順位について【R6.8 専門部承認済み】

※令和6年度は、補充なし

ブロック	出場枠	都道府県数	学校数	平均値	優先順位
北海道	1	1	3	3.00	1
東北	3	6	8	1.33	4
関東	4	8	7	0.88	7
北信越	3	5	6	1.20	6
東海	2	4	8	2.00	2
近畿	2	6	9	1.50	3
中国	2	5	4	0.80	8
四国	2	4	2	0.50	9
九州	4	8	10	1.25	5

3) 予備手具については

ロープの長さ、リングのテープの貼り方について、大会の諸連絡に記載をお願いしたい。

7 日本体操協会男子新体操委員会より（安福審判委員長）

- ・ F I Gから男子の新体操のルール提供依頼があった。（担当者の勉強段階）
- ・ 各地区の状況に合わせて審判編成等工夫していただきたい。

男子新体操 高体連適用規則（令和7年度）

1 次に示すものを除き、（公財）日本体操協会男子新体操規則による。

(1) 禁止技について

団体競技・個人競技ともに下記の技を禁止する。なお、禁止技を行った場合は、その演技（D得点およびA得点）を0点とする。（注：いずれも組運動を含む。）

ア 縦に2回を超える回転をともなった宙返り

(2) 制限技について

後方系の跳躍技からひねりを伴って直接正面支持臥の技の使用できる回数を1回限りとする。

上記の制限回数を超えて使用した場合は、その演技（D得点およびA得点）を0点とする。

2 演技中の停電の処置について

(1) 演技続行が不可能と判断した場合は、競技部長及び審判長の判断により演技を中断することができる。その場合、再演技を行うことができる。

3 成績順位及び表彰について

(1) 不慮の事故等で種目の棄権があった場合、種目別選手権の表彰対象とする。

4 審判編成基準

審判長

個人競技	D1	D2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
団体競技	D1	D2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
線審（2名）			開催県							
計時（1名）			開催県							
補審（1名）			開催県							
セクレタリー（1名）			開催県							